

平成29年度 学校評価報告書

1 本年度の重点目標

- 1 確かな学力の育成と効果的な授業の展開
- 2 心身の健康と安全教育の展開
- 3 変化する社会に対応するキャリア教育の展開
- 4 開かれた学校, 信頼される学校づくりの展開

2 自己評価結果に対する学校関係者評価

A 達成している B おおよそ達成し C あまり達成していない D 達成していない

評価分野	評価項目	自己評価		学校関係者評価	
		評価内容と改善策	自己評価結果	自己評価の適切さ	改善策の適切さ
総務	① 諸行事の計画を早めに立て、連絡調整を十分に行って、円滑な運営を図る。かつ、事後に十分な反省・点検を行って次に活かすよう努めたか。	関係部署との連携・協力により、ほぼ計画通りに運営できた。総務部が担当する賞状伝達も総務部の担当業務というのが定着してきた。また、総務部会において、行事等の事後の振り返りを行い、次回に向けての改善策を検討している。	A	A	/
	② P T A ・教育振興会ならびに翔朋会と積極的かつ広範囲に協力・連携し、それぞれの会の活動目的の実現を図ったか。	PTAの役員会時の会計監査に時間がかかり、議事の進行に支障がでた。PTA役員の方々は概ね協力的で、文化祭のPTAコーナーや広報誌の編集には積極的に参加をいただいた。その結果、広報誌が仙塩地区で入賞し、県の審査に進むこととなった。 【改善策】 ○PTAの会計監査は事前に余裕をもって行えるよう連絡調整を図っていく。 ○PTA総会は、来年度以降、校地内駐車場の台数が減少する。適切な広報活動や、本校の施設設備の現状の周知徹底を図り、保護者の理解を得る。 ○同窓会総会の参加者がここ数年低調に推移しているため、役員の方々と協議の上、対策を考えたい。	B	B	B
	③ 複数の分掌にまたがる校務の連絡調整に常に配慮したか。	ホームページ、文化祭、体育祭、芸術観賞等の行事、入学式・卒業式等の式典、また、いじめ対策や学校保健員会等の会議等において、他分掌との連携は概ね良好であり、円滑な運営ができた。	B	B	/

総務	<p>「PTA広報誌」や「多高通信」等を発行し、さらにそれらを学校ホームページに掲載することで、より広く学校のPRを行ったか。</p> <p>④ また学校自由見学月間などを通して一層の情報公開を図るとともに、地域の声に耳を傾け、説明責任を果たすよう努めたか。</p>	<p>学校評価アンケートの結果では、メール配信への要望は減っているものの、配信が必要なものはできるだけ速やかに、配信を心がけたい。ホームページについては更新の頻度への要望が寄せられている。また、PTA広報誌が仙塩地区で入賞するなど、これまで、PTA会員にとって親しみやすい紙面作りを行ってきた成果が実った。</p> <p>【改善策】</p> <p>○ホームページ更新が、項目により更新頻度に差が出ないように各担当者をお願いしていきたい。</p> <p>○ホームページは次年度新システムに移行予定であるが、移行までの間、現HPをさらに使いやすくするための改善を図る。具体的には更新の迅速化、ページによる更新頻度の均一化、レイアウトの工夫などを行う。</p> <p>○中学生・高校生の利用が多く見込まれるSNSの活用についての検討を進める。</p>	B	A	B
学校関係者評価者による意見	<p>・SNSについては、生徒がどのように使うかという課題はありますが、情報ツールとしてはとても有効です。使い方を工夫すると、学校運営がさらにスムーズになると思います。</p> <p>・ここ何回か続いているアンケート「いじめ問題の共有」の乖離は速やかに改善すべき問題である。抜本的な対策が立てられておらず、アンケートを取った意味がない。また対策が具体的でない。</p> <p>・いじめについてはその定義が難しい。問題が頻発しているわけではないのであれば、実情の共有を進めるのが良いかと。同窓会は、学校が長く役立っていると思ってくれば活発になる。</p>				
教務	<p>① 現行の教育課程の効果的な運用と改善を図るとともに、新学習指導要領を見据えた教育課程の研究を進める。</p> <p>○効果的な運用はできたか。</p> <p>○新学習指導要領にむけた教育課程の検討は進んだか。</p>	<p>・現行の教育課程についてはほぼ手を加えず。</p> <p>・新学習指導要領を見据えた教育課程については、今年度複数回に渡って教育課程検討委員会を開催し審議を重ねた。年度末に予定される正式通知を待ってより具体的な審議・検討を進めていく。</p> <p>【改善策】</p> <p>○新学習指導要領を見据えた教育課程の検討を、より具体的に進めていく。</p>	B	B	B
<p>② 新学科の完成年度に向けて準備を進めるとともに、教育課程や学校設定科目の内容等に関する研究を進め、工夫と改善を図る。</p> <p>○工夫と改善に取り組めたか。</p> <p>○災害科学科の教育課程を研究したか。</p>	<p>・時間割編成では、各クラスの科目・教科のバランスを考慮し編成した。</p> <p>・他校（県外・県内）の教育課程や大学の受験科目を分析し、部分的に改善した。次年度も年間を通し検討を重ね、大学入試改革および新学習指導要領を意識して教育課程編成を研究・検討していく。</p> <p>・災害科学科については、担当の先生方の尽力によって、自作教科書による学校設定科目の運用がスムーズにおこなえた。また、校外での研修や巡検も充実した内容で実施できた。今後も研究・検討を進め、ブラッシュアップをはかっていきたい。</p> <p>・災害科学科の課題研究については、内容・進め方・評価の仕方等についてさらに検討が必要である。</p> <p>【改善策】</p> <p>○災害科学科の完成年度にあたって、3年間を見通して教育課程・巡検・特別授業などの全体的な検証をおこなう。</p>	B	B	B	

教務	<p>新入生の分析および次年度入試の検討を行うとともに、新入試制度に向けての検討を開始する。</p> <p>③ ○高校入試の結果を検討し、次年度に反映できたか。</p> <p>○新入試制度に向けた検討は進んでいるか。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・入試結果の分析や1年生に対してアンケート(第1志望校・志望理由・本校へのイメージ等)を実施し、外部から見た本校のイメージや県内高校での学力位置を調査した。その結果を用いて各種の高校説明会で本校のストロングポイントを中心に説明した。 ・災害科学科においては、全体の説明会(7月)とは別に単独の学校説明会(10月)を開催した。災害科学科の生徒によるパワーポイントを使った学校紹介(高校生活や校外研修の様子など)が好評であった。さらに体験授業を2度設定することで、学習内容についての理解を広く得られるよう工夫した。学校説明会の形態・時期・内容については改善の余地がまだあり、今後検討していく。 ・新入試制度に向けての検討は、早い段階から部内でおこなっている。先日、高校教育課から正式な要項と今後のスケジュールが示されたので、それに合わせて準備・検討を進めていきたい。 <p>【改善策】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○オープンスクールでは本校生徒が関わる場面を広げ、中学生や保護者へ多高の魅力を強くアピールする。 ○学校説明会や中学校訪問の機会を利用して積極的に多高をPRする。 	B	B	A
	<p>学習を基本とした生活習慣の確立を目指すとともに、十分な授業時間を確保する。</p> <p>④ ○学習を基本とした生活習慣の確立に取り組めたか。また、時間割を円滑に実施できたか。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・学習を基本とした習慣を身につけるため、「ベル着指導」を継続している。ベル後にロッカーで授業準備をしている生徒はだいぶ少なくなったが、今後も指導を継続していきたい。 ・教員には正味50分の質の高い授業の提供を心がけるよう声がけしていきたい。 ・授業変更において、教室割りが重なってしまったケースがあった。次年度は注意して変更していきたい。 	B	B	
	<p>定期考査の分析、成績処理方法の周知徹底を行うとともに、評価方法の検証と改善を図る。</p> <p>⑤ ○観点別評価を取り入れているか。</p> <p>○成績処理を円滑の行ったか。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・シラバスについては新たにESDの観点を盛り込んで作成した。また、昨年に続いて定期考査の問題を4観点より作成することも実施した。 ・成績処理については、教務支援システムの運用が昨年とくらべてスムーズに行えたと思う。次年度にむけてより使いやすい運用を検討していきたい。 ・学年末評価の算出やチェックの方法の周知に不十分なところがあり、ミスを招いてしまった。今後このようなことがないように、周知に努めたい。 ・大学入試制度改革を見据えた評価方法を検討し、提案していきたい。 <p>【改善策】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○内規や成績処理のしくみを整理し、先生方への周知を図る。 ○教科・学年を中心にしたチェック体制を再構築する。 	C	C	B

教務	⑥ 授業力向上を目指し、授業評価の効果的な検証と改善および教員研修の多様化を図るとともに、生徒の学習意欲や学力を向上させる方法を多角的に模索する。 ○授業評価の実施とその検証が効果的におこなえたか。 ○教員研修は効果的におこなえたか。	・授業評価をおこない、その集計結果と分析を各教科にフィードバックした。授業改善は個々の教科・教員によるところが大きいですが、教員研修におけるグループワークなどもきっかけとして、一層の改善を図っていきたい。 ・互見授業を5、10月の2回実施し、教員がお互いに刺激し合う土壌づくりを行った。 ・公開授業の中で、ICTやALを取り入れた授業展開が見られた。他教員への波及効果が見込める授業公開を今後も展開する。	B	B	
	⑦ 校内諸規定の継続的改善をおこなう。 ○校内諸規定の改善を実施したか。	・定期考査実施における運用の見直し、評価規定の改訂等に取り組んだ。	B	B	
学校関係者評価者による意見		・災害科学科の完成年度に向けて、世間の注目もさらに高くなると思いますので、ぜひ学校一丸となって頑張ってください。 ・③項の改善策がより具体的でよい。心構えや方針だけでは改善できないと思う。 ・成果が現れており、全体としてよい体制が整えられていると思う。災害科学科については外部の力を導入し、教員負担の軽減を進めたい。			
生徒指導	① ・規律ある学校生活を送るために、全職員の共通理解・共通行動のもと、基本的生活習慣の確立と諸規則遵守の徹底を図ったか。 ・髪型や服装など、ルールに則った規律ある学校生活を送らせたか。 ・交通安全に対する意識を高めさせたか。また、自転車運転マナー及び電車乗車マナーを身につけさせたか。	・服装髪型に関しては良好な状態を維持できている。しかし、指導の手を緩めるとその状態が崩れだす可能性があるため、HR、授業、学年集会、部活動など、それぞれの場面に指導の機会だと捉え、教員側が「指導する姿勢」を粘り強く持ち続けるよう声がけする。 ・交通安全指導に関しては年2回の街頭立ち番指導を行った。先生方のご協力により、生徒の「交通安全意識の高揚」には一定に効果があったと思う。ここまでの事故件数は平成27年度14件、平成28年度12件に対し、平成29年度は現時点において10件と順調に件数が減少してきている。しかし、もらい事故等含め「不慮の事故」に遭う危険性や、生徒が加害者になる可能性も十分に考えられるため引き続き交通安全指導を継続していききたい。	B	A	

生徒指導	②	<ul style="list-style-type: none"> ・自主自立の精神を身につけさせるために、個性の伸張を目指し、良識と責任ある行動をとることができるよう育成したか。 ・生徒会行事や委員会活動を自主的に運営できるよう、適切な援助を心がけ自立的な活動ができるようにしたか。 ・部活動を通じて学校の活性化を図るために設けた「多高基準」によって、各部共通の規律ある活動を行わせたか。 	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒会、部活動、委員会による挨拶運動、駐輪指導、清掃ボランティアなどを1年間継続して行うことができた。また校外において交通安全立ち番運動を風紀委員が積極的に行った。震災関連のイベント、学校間交流など数多くの対外的な活動を行い、生徒の主体的な学びの機会を得ることができた。しかし、一方で生徒会活動の内容、その意義が全校生徒に浸透していない部分も今だに見受けられた。 ・部室の鍵管理に関する指導及び下校指導を行った。今後も19時完全下校を徹底していくためにも生徒に部活動時間、下校時間の厳守を指導していきたい。 ・盗難事故を未然に防げるよう、各学年と連携し貴重品の管理を徹底して指導していきたい。 ・三大大行事ではそれぞれの実行委員会を立ち上げ企画運営のすべてを行い、実行委員長を中心に内容ある活動を行うことができた。 <p>【改善策】 ○生徒会活動について、継続的な活動内容の発信を生徒会新聞、HP更新などで行っていく。</p>	B	A	A
	③	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒理解に努め、保護者との連携を強化し、個に応じた指導の充実を図ったか。 ・生徒や保護者に対して「生活指導方針」及び「懲戒に関する規則」を明示し、学校と家庭の共通理解のもとで生活指導できるよう配慮、徹底したか。 	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒や保護者に対して「生活指導方針」及び「懲戒に関する規則」を明確に示すことで、学校の教育活動に対し協力を得られるように努力した。また、いじめ問題対策委員会を立ち上げ情報交換の場を設けることで、いじめ問題に対する本校の取り組み、指導計画、指導内容に対し、保護者からの理解が得られるよう努めた。 ・部会等において生徒に関する情報交換を適宜行い、問題行動等の未然防止に努めた。 ・三大大行事、生徒会活動等について、HPを活用することで幅広く情報を発信した。 	B	B	
学校関係者評価者による意見		<ul style="list-style-type: none"> ・ボランティア等をするモチベーションがさらに高まるよう、ご指導をお願いいたします。 ・完全ではないにしても、また個人差があるにしても、外部から見ると、標準レベルと比較し、自主性の高い生徒が多いように見え、非常に良いと思う。 ・生徒の皆さんのあいさつ運動は、一人ひとりに徹底されており、大変すばらしいと思います。 ・活発な活動が行われている。生徒会のレベルはとて高い。教員の負担が心配。軽減策が必要。 				
進路指導	①	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒の自己理解と志望の明確化を図り、進路目標が達成できるよう学年・教科と連携して指導援助する。 ・学年・教科との連携ができたか。 ・生徒に進路を考えさせる取り組みができたか 	<ul style="list-style-type: none"> ・様々な進路行事や模擬試験、課外講習等において学年・教科と連携を図りながら計画的に取り組むことができた。 ・3年生の進路実現に向けた受験指導や学習支援を学校全体の協力体制のもと実施することができた。 ・生徒に進路を考えさせる取り組みは行われているが、進路実現に向けた次の行動につなげられるような生徒を動かすための環境づくりや工夫が必要である。 <p>【改善策】 ○新入試制度を見据えた進路指導体制を構築する。（新入試対策、外部英語検定試験、e-ポートフォリオ）</p>	B	B	B

進路指導	<p>② 最新の情報を収集し、生徒・保護者・教員に的確に情報を発信する。 ・的確な情報発信ができたか。</p>	<p>・3年生の進路実現に向けた全校的な取り組みを円滑に進めるために3年生の模試成績・志望状況、入試別出願・合否状況等を全学年で共有できるように努めた。また、入試説明会等で得られた最新の入試情報や動向は全学年で共有できるように配慮した。 ・進路講演会や進路ガイダンスによる生徒への情報発信に加え、生徒が自発的に進路学習や受験準備に取り組むための手立てを講じていくことが必要である。 ・教育・入試改革に関する校内研修会を実施することで新入試制度についての理解を深めることができた。今後も校内研修の機会を設けていきたい。 ・全学年で保護者対象の進路説明会を実施しているが、保護者への的確な進路情報の発信や3年間の本校の進路指導方針・計画を十分に伝えきれていない現状がある。学年PTAも含めて内容の充実を図っていきたい。</p> <p>【改善策】 ○大学改革に伴う学部改組や入試形態の変更、新入試への転換を見据え情報発信を積極的に行う。</p>	B	A	A
	<p>③ 大学や社会人との連携を重視し、アカデミックインターンシップ・オープンキャンパス、夢ナビライブ等への参加や社会人講話の充実発展を目指す。 ・体験型の進路行事を通して生徒の進路意識を高めることができたか。</p>	<p>・アカデミックインターンシップ、夢ナビライブ等の体験型行事は生徒の進路意識を高めるために有効なものである。得られた貴重な経験を生徒自らが次なる自発的な行動につなげられるように内容の充実に努めていきたい。 ・公務員インターンシップ（県主催事業）に2年生1名が参加することができた。公務員の志望者の進路意識の高揚につながる事業として有効活用していきたい。</p> <p>【改善策】 ○夢ナビライブやアカデミックインターンシップ、オープンキャンパス等の体験型進路行事を学部・学科研究の深化につなげる。</p>	B	B	A
	<p>④ 教科による模擬試験・学力診断結果の分析を事後指導（授業・講習等）に十分に活かす。 ・分析結果を事後指導に活かすことができたか。</p>	<p>・生徒の進路実現には受験体制を早期に確立し、いかにして基礎学力を定着させるかが重要である。1・2年次から生徒の基礎学力の定着度を高めることを目的に模擬試験の有効活用を学年・教科に提案した。模擬試験問題と結果を分析することで生徒の学習分野の弱点を把握し、生徒の振り返り学習支援の協力を依頼した。進路指導部としては詳細なデータを提供するとともに、生徒の基礎学力の向上を目指した支援に努めていきたい。</p>	B	B	
学校関係者評価者による意見	<p>・制度の変わり目ですが、保護者・生徒さんに適切な情報が届けられるよう、頑張ってください。 ・様々な対外活動における自主性の高さのように、進路の決定やその準備に関しても、自主性をより高めるような指導をお願いしたい。 ・成果が上がっており、望ましい状況にある。（新テスト対応）成績不振者への対応が十分か。よい学習機会がたくさんあるので、それが進路に結び付くと良い。</p>				

図書情報	<p>① 図書館を校内の「読書センター」及び「学習情報センター」として位置づけ、読書に親しませ豊かな感受性を育成するとともに、生徒の学習や教職員の教育活動に必要な資料の充実に努め、積極的な広報活動や図書館の整備により、図書館利用の活性化をはかる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・資料の購入並びに、廃棄及び、図書館の整備にあたり、各分掌（部・学年・教科）との連携をはかるとともに、生徒・教職員からの図書購入希望を広く受け入れる体制をつくったか。 	<p>今年度は、今まで以上に図書館の利活用についてPR行ってきたが、著しく増加したわけではなかった。来年度は、より広範囲に図書司書が関わることで、授業をはじめとして、課題学習や図書館独自の活動でも、生徒が積極的に利活用できるよう進めていきたい。</p> <p>【改善策】 ○年度の諸活動を見越した案内やPRを行っていく。</p>	B	B	B
	<p>② 図書委員会活動を通じて、生徒が主体的、自発的に校内の文化活動の振興と生徒会活動へ積極的に寄与できる環境を整える。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・図書委員会の活動計画に沿い委員会活動を積極的に進めたか。 	<p>図書委員は、各学年とも積極的に諸活動に参加してくれた。今後も、委員の自立性を育みつつ、学校全体に寄与できるように、委員会活動を行っていきたい。</p>	A	A	/
	<p>③ 学習活動へのICT利活用を積極的に支援し、推奨できる環境を整える。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ICTを利活用した授業や学習活動に率先して取り組むと共に、その成果についての検討を行ったか。 	<p>多くの先生方が、ICT機器を利活用して授業を行うようになってきた。</p> <p>【改善策】 ○一過性のものにならないように、サポートしつつ新たな可能性を示していく。</p>	A	A	A
	<p>④ 校内の視聴覚機材の適切な管理及び整備に努めるとともに、視聴覚資料の充実をはかる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・校内の視聴覚機材の現状を掌握し、保守点検を行うとともに、必要な機材の拡充を行ったか。 	<p>おおむね良好であるが、一部で機器の操作リモコンが紛失する等があったので、今後は注意を呼びかけていくなどの対処を行うこととした。</p>	B	B	/
	<p>⑤ 校内LANの保守及び、管理に努める。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・校内LANの安定運用に向けて、必要に応じて点検作業等を行ったか。 	<p>総じて安定的に運用できたと考えている。次年度は、回線の大幅な改築が予定されていることから、その際に不具合が起きないように、関係各所と連絡を取っていくこととした。</p>	A	A	/

図書情報	<p>情報資源の把握並びに、管理及び、セキュリティ対策基準の適切な運用をはかる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・(1) 各分掌(部・学年・教科)で共有領域に保存されているファイルの目録作成を行うとともに、セキュリティ対策基準の適切な運用を進めたか。 (2) 関係各分掌と連携し、メディアリテラシー教育を進めたか。 	<p>これまでの積み重ねに対して、年度はじめに画像データについての整理を行った。</p> <p>【改善策】 ○共有領域のデータに関して、整理の指針等を示す。</p>	B	B	B
	<p>校内外の各種調査及び、集計作業のサポートにあたる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・校内の各種調査において集計作業のサポートを行うとともに、各分掌等での利用促進を進めたか。 	<p>個人のスキルの問題から、そのほとんどは、他分掌に属する情報科の教員に任せてしまった。</p> <p>【改善策】 ○教員のメディアリテラシーを高め、担当分掌で処理できるよう支援していく。</p>	C	B	B
	<p>教育活動の広報及び、防災情報の周知並びに、情報発信に努め、公式Webページなどの更新にあたる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・関係各分掌と連携し、多高通信、Webページ等により積極的な情報発信に努めたか。 	<p>担当各所より依頼があったことについては、対応できたと思うが、更新頻度低さから外部よりの指摘を受けている所でもある(8割強は、高評価してくれているが、2,3年での「あまりそう思わない」の比率が増加している)。</p> <p>【改善策】 ○次年度半ばから、HPの更新に関しては、教職員全員であたることになるので、それまでの事前研修を十分に行うことで、HPのCMS化に対応できるようにする。</p>	B	B	A
	<p>これからの図書館活動、教育工学、情報教育のあり方及び、展望を探るとともに、実践について研究する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・宮城県高等学校図書館研究会、宮城県高等学校メディア教育研究会、宮城県高等学校情報教育研究会等の実施する研修会参加を通じて研修に努めたか。 	<p>タブレット端末の利用に関しては、全国的には他校に比べて、設備、運用の仕方、授業での利活用等、本校が一步進んでいる状況ではあるが、全国的には、ごく一般的な状況になっている。教育工学、情報教育の観点から、ICT利活用の定着と改善点を探るのが次のステップとなると捉えている。また、図書館活動に関して、より生徒の利用が活発になるようなあり方を模索していきたい。</p>	A	A	
学校関係者評価者による意見	<ul style="list-style-type: none"> ・学生時代の読書の習慣づけが、大人になってからの楽しみ以上の、その人の奥行になると思います。興味が深くなるような取組みがさらにあるといいですね。 ・様々な情報機器については、それが得意で詳しい生徒をうまく活かしてみてもどうか。大学や会社の研究室では、学生や詳しい社員に頼ることも多く、役に立っていると思う。 ・IT活用は実践的で進んでいくと思う。 				

保健 厚生	<p>① 生徒の教育相談に関わる問題を早期発見し、適切な支援を行う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教育相談体制（カウンセラー紹介、申込方法など）を周知したか。 ・教育相談に関係する各種委員会において、教育相談についての情報を共有し、適切な支援を行ったか。 ・特別支援教育研修会を実施したか。 ・各種たよりや掲示物の工夫による利用しやすい体制づくりをしたか。 	<ul style="list-style-type: none"> ・対面式やオリエンテーション、学年だよりを通して教育相談体制の周知を図り、掲示物（相談日・予約状況表）を工夫して広報活動を行った。 ・たよりの種類と発行回数を増やした。 ・教育相談に関する校外での会議の内容を持ち帰り、職員会議で報告した。また、特別支援教育についての校内研修会（2月）を実施した。 ・担任や学年、生徒指導部、教務部と連携し、カウンセリング日のケース会議、年3回の教育相談委員会の実施した。また、必要に応じて関係部署と情報を共有した。 <p>【改善策】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ケース会議で共有された情報をもとに、必要に応じて生徒指導部、教務部をはじめとする関係部署と連携・協力して、適時に生活指導・学習指導につなげる。 ○相談日以外の相談室の利用方法の検討、教育相談関連の研修などを通して、さらに教員の理解が深まるよう努めていく。 	B	B	B
	<p>②</p> <ul style="list-style-type: none"> ・生徒と職員が一体となって校舎内外の環境整備、環境美化に努める。 ・生徒全員で清掃に取り組み、職員全員が清掃監督を行う一斉清掃を徹底したか。 ・教室環境整備や清掃用具の適切な使用方法について呼びかけたか。 ・年3回の安全点検結果を速やかに報告し、事務部と連携して校内環境の安全を確保したか。 	<ul style="list-style-type: none"> ・年度初めの対面式や学年会において、清掃用具の正しい使い方と呼びかけ広報活動に努めた。 ・生徒保健委員による清掃点検結果を速やかに提示するなどフィードバックを心がけた。 ・教員による安全点検の結果を事務部に報告し、迅速に対応ができた。 <p>【改善策】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○安全点検の結果を事務部と速やかに確認し、可能な箇所は実施月のうちに修理する。 ○定着している生徒・教員による一斉清掃体制を今後も維持し、簡易清掃は必要最低限にとどめる。 	A	A	A

保健厚生	<p>生徒の健康管理</p> <ul style="list-style-type: none"> 健康診断の効果的な事前指導，速やかな受診勧告を実施したか。 学校保健委員会を年2回実施し，学校医，保護者から指導助言を受けたか。 薬物乱用防止教室を行い，薬物乱用防止教育の充実を図ったか。 <p>③</p> <p>教職員の健康管理</p> <ul style="list-style-type: none"> 衛生委員会を年3回実施し，健康管理医から指導助言を受け健康管理につなげたか。 	<ul style="list-style-type: none"> 健康診断の結果内容，保健室利用の状況等をもとに個別の保健指導を行った。 学校保健委員会（年2回）を実施できた。 第1学年を対象に薬物乱用防止教室を実施（11月）した。 教職員健康診断の結果項目が要再検・要医療対象者に再検査の呼びかけた。 衛生委員会で健康管理医からの指導助言を受けた残業時間や土日，祝日出勤などに関しては今後の課題である。 衛生委員会（年3回）を実施できた。 <p>【改善策】</p> <p>○職員各自の健康管理，疾病予防，休養日の設定を促し，早期の再検査受診（年内）を勧める。</p> <p>○保健厚生部に関連する委員会の開催日や時間の設定に苦慮しているが，学校生活の基礎である健康管理に関する委員会であるという重要性に鑑み，その内容を精選しながら，例年通り実施していく。</p>	B	B	B
学校関係者評価者による意見	<ul style="list-style-type: none"> いつも気持ちよく，校内が整備（美）されていると思います。 ③については，働き方改革のなかでもかなり過酷な教職員が対象なので，より配慮をしていただきたいと思います。 この学校の子どもたちは明るく元気。 				
1学年	<p>①</p> <p>早期に基本的な生活習慣を確立させ，自律した行動の推進を図ったか。</p> <p>①時間を意識した行動。②挨拶，言葉遣い，礼儀作法，服装。</p> <p>③生活スケジュール管理，自発的行動。</p> <p>④清掃徹底，整理整頓，私物管理。</p>	<p>年間通して，欠席・遅刻・早退・欠課が少なく，問題行動も発生せず非常に落ち着いた学校生活ができていた。学習環境も良好な状態が保たれていた。</p>	A	A	/
<p>②</p> <p>基礎学力を定着させるとともに，能動的・協働的・継続的な学習習慣の確立を図ったか。</p> <p>①授業中心学習，協働的集団づくり。</p> <p>②各種学習活動の活用による，基礎学力の定着。</p> <p>③学習計画立案と実践，面談等を通じた結果の活用。</p> <p>④自主・自発的学習への転換。</p>	<p>各教科においてAL型授業を積極的に導入することにより，協働的・継続的な学習習慣は確立されてきている。また，模試や学習時間調査などの結果などを活用して，こまめに面談を実施し，担任からの意識付けと定着のための働きかけはできていた。その成果として，各種検査等において例年並みの結果を得ていた。</p> <p>【改善策】</p> <p>○災害科学科では，総合的学習の時間や課題研究の時間以外に，多くの授業が回された（あげた）。基本となる授業時間の確保は補償するよう関係部と調整していく。実際になくなった授業数を年度末にチェックし，担当部署へ情報提供したい。</p>	B	B	B	

1 学 年	<p>自己理解を促し、明確な進路目標に向かって継続的に努力する姿勢の育成を図ったか。</p> <p>①ガイダンスや面談を通じた進路意識の深化。</p> <p>③ ②模試の事前・事後指導で、弱点把握とその克服を促す。</p> <p>③課外講習の積極的参加、継続的取組みの指導。</p> <p>④校内外の企画・イベントへの積極的参加。</p>	<p>上記のとおり、担任によるこまめな面談実施や教科担当者による適切な指導により目標達成に向けた指導と自己分析と理解の手掛かりとなるような指導を多方面から、かつ多様な方法によって実施されていた。また、既成の学校や学年の行事や取組のみならず、実情の改善に向けてできる限りの対策を積極的に行ってきた（家庭学習・課題調査、スタディサプリの導入、考査対策勉強会など）。また、校外外における各種イベントやフォーラム、企画等にも積極的に参加していた。</p> <p>【改善策】 課題研究に多くの時間が割かれ、本来必要である進路指導の時間が非常に足りていない状況にある。普通科においては、課題研究の見直しをし、課題研究と進路指導がマッチングした内容などの検討をしていく。具体的には各方面から情報を提供してもらい、今年度担当者と整理し、今年度末にモデル案を提示したい。</p>	A	A	A
	<p>学校行事や部活動に積極的に関わらせ、調整力・問題解決力・協調性の育成を図ったか。</p> <p>①目的達成の役割の明確化、主体的取組みの環境整備。</p> <p>④ ②各活動の情報共有、活動発展への意識高揚。</p> <p>③小成功体験の積重ねで、自信を醸成。</p> <p>④学業との両立を遂行する最大限の努力。</p>	<p>学校行事や部活動はもちろん、その他の活動においても自主的・自発的に取り組んでいた。LHRの学年行事においても、年間を通して自分たちで企画、運営をしていた。その他にも、各クラスや委員会などの様々な集団においても自主的に活動することができていた。</p>	A	A	
学校関係者評価者による意見	<p>・多賀城高生の強みとなるだろう「自主性、自発性」をぜひ、早い段階から身に付けるよう指導されると良いと思います。</p> <p>・良いと思います。</p>				
2 学 年	<p>基本的な生活習慣を維持させ、自律した責任ある行動の推進を図る。</p> <p>① 挨拶、礼儀、服装、清掃などあたりまえのことが徹底して行うことができたか。</p> <p>② 生活のスケジュールを自己管理し、自分で考えて行動できたか。</p>	<p>概ね落ち着いた学校生活を送っているが、「自ら進んで」というところにはやや課題が残る。失敗を恐れず積極的に行動できるように指導を継続していきたい。</p> <p>①概ね良好であるので、次年度も継続させたい。</p> <p>②今後、特に進路に関わることについては個々人によって取り組みが異なっていくので、自分でスケジュールを確認し、常に先々を見据え、計画的に行動できるように継続して働き掛けたい。</p>	B	B	

	<p>基礎学力を定着させるとともに、能動的・協働的・継続的な学習の維持を図る。</p> <p>① 授業を中心とする学習が充実するような協働集団づくりができたか。</p> <p>② ② 小テスト、課題、考查および模擬試験等を活用し、基礎学力を定着が図れたか。</p> <p>③ 自らすすんで課題を見出し学習に取り組めたか。</p>	<p>与えられた学習課題への取組や試験直前の学習については概ね良好であるが、自らの課題を意識した取組や継続した地道な学習、また高校入学からこれまで学習してきた内容の復習がまだ不十分である。毎日の家庭学習を習慣化させ、例外をつくらず学習していくように働き掛けていきたい。</p> <p>① 3年生進級に向けて、教室が学習する場であることを明確化し、学習が当たり前の雰囲気をつくる。</p> <p>② 学習したことがすぐに結果に表れる訳ではないので、今後もそれぞれの学習活動の意図を伝え目的意識をもって取り組ませ、学習に取り組むことをあきらめさせない。</p> <p>③ 自分のやるべきことを把握し目標を立てて取り組んでいる生徒は増えてきているが、まだまだ与えられた課題で精一杯あるいはそれだけでとどまっている生徒も少なくない。面談等をおして、それぞれやるべきことに気付かせたい。</p>	B	B	
2 学 年	<p>明確な進路目標を立て、継続的に努力する姿勢の育成を図る。</p> <p>① 進路ガイダンスや個別面談を通し、自分の進路についての考えを深化させることができたか。</p> <p>② ③ 学問研究、進路研究を進めながら、生徒一人一人の志望の明確化が図れたか。</p> <p>③ 校内外を問わず、企画・イベントへの積極的な参加を促し、視野を広げさせられたか。</p>	<p>各種ガイダンス、講演、進路学習・研究、面談を通して自分の進路について考えを深めさせた。実施後のレポートから少しずつ進路に具体性がでてきたり、あいまいな進路希望をもう一度見直したりする生徒が増えていることが窺える。</p> <p>① 進路について目標を見つけられずにいる生徒もまだいるので、面談を継続しながら考えさせていきたい。</p> <p>② それぞれの取組について概ね良好であった。今後も集会や進路研究を通してその都度生徒の考えに揺さぶりを掛け、自分自身の決断をしっかりとものにさせていきたい。</p> <p>③ 1年次と比較し、様々な企画・イベントに積極的に参加する生徒が増加した。今後も参加したことで終わらせず、しっかり振り返りをさせ、自ら課題を見つけて次に進むことができるように指導を継続する。</p>	B	B	
	<p>学校行事や部活動の中心的な役割を担わせ、調整力・問題解決力・協調性の育成を図る。</p> <p>① ④ 目的と果たすべき役割を明確化し、主体的に取り組ませる環境を整えることができたか。</p> <p>② ④ 学業との両立を成し遂げるために、最大限の努力をしていたか。</p> <p>③ ④ 修学旅行において、事前・事後研修やクラスや班活動の企画・調整を通して所期の目的が達成できたか。</p>	<p>大方の生徒は様々な活動にまじめに取り組んでおり、その過程で悩みながらも一歩ずつ前に進んでいる。各活動の切り替わりにメリハリをつけさせ、それぞれ最大限の努力を惜しまないように継続して指導していきたい。</p> <p>① 学校の中心となり活動する機会が自然と増えてくるが、一部の生徒だけの活動に終わることなく、できるだけ多くの生徒が関わられるように働き掛けていきたい。</p> <p>② スキマ時間を活用するなど、時間の使い方を工夫する生徒が増えてきているが、スマホなどに時間を多く使っている生徒もまだ一定数いる。進路を考える上で大事な時期に何をすべきかを、機会に触れて指導していきたい。</p> <p>③ 概ね目的を達成することができた。</p>	B	B	
学校関係者評価者による意見	<p>・災害科学科の生徒さんは特に、専門の授業だけではなく、大学受験につながる準備をより早くスタートして、不利にならないように配慮する必要があると思います。</p> <p>・良いと思います。とても活発ですばらしいと思います。</p>				

3 学 年	<p>希望進路達成のため、最後まで努力する強い精神力を有する生徒の育成を図る。</p> <p>①強い気持ちで受験勉強に臨ませられたか。</p> <p>②センター試験の受験者数。</p> <p>③センター試験後の課外受講状況。</p> <p>④国公立大後期試験の受験者数。</p>	<p>①教員団の、継続的な声がけもあり、授業時間以外でも、自主的に教室内外で張り詰めた雰囲気での学習する生徒が多かった。しかし、成績下位層を伸ばしきれなかったのが反省点である。反省点については、次年度に引き継ぎたい。</p> <p>②「センター試験は、原則受験するもの」と担任団で意思統一して、生徒に指導した。結果、センター試験受験者は、222名（昨年198、一昨年196）で、過去3年間で最多だった。センター試験の成績は、全体としては力を発揮することができたが、通常の力を発揮できなかった生徒も約10数名いたので、指導を継続したい。</p> <p>③、④については、これからである。</p>	B	B	
	<p>他を認め合い、団体で受験に臨めるようなクラス・学年の雰囲気醸成を図る。</p> <p>①公務員受験、大学等推薦</p> <p>②受験時に、クラスで互いに応援する雰囲気を醸成できたか。 ②進路早期内定者が内定後、良識的な行動をとらせられたか。</p>	<p>①クラス全体で、それぞれの生徒の受験時に適切な行動をとれるように指導できた。結果、生徒たちの態度、クラスの雰囲気も概ね良好だった。また、友人同士がで教え合い、または生徒同士で面接練習する姿も各クラスで見られた。</p> <p>②HRや授業、集会などで、進路早期内定者の取るべき適切な行動を指導できた。結果、進路早期内定者も、内定後に気持ちが緩むことなく課外に参加するなどして、センター試験でも結果を残した。また、進路早期内定者が、他の生徒の集団面接練習等に積極的に協力した。</p>	A	A	
	<p>授業、家庭学習、学校行事等に、積極的に取り組む生徒の育成を図る。</p> <p>①授業の質が向上したか。</p> <p>②自律的に学習させられたか。</p> <p>③学校行事に積極的に臨ませることができたか（＃No7）</p>	<p>①教員間の情報交換を密にして授業に生かした。「生徒アンケートNo1（生徒にとって、学ぶ意欲を引き出し、学力を身につけられるような授業が行われている）」で、「そう思う・大体そう思う」と答えている生徒が82.4%と、高い評価だった。</p> <p>②部活動が終了してから、受験勉強に切り替えの声がけを徹底した。結果、概ねスムーズに切り替えさせられた。</p> <p>③学校行事と授業のメリハリをつけることの大切さを生徒たちに話した。 ※「生徒アンケートNo7（自分にとって、有意義な学校行事がある）」で、「そう思う、大体そう思う」と答えている生徒が88.0%。</p>	A	A	

3 学 年	<p>生活全般で、自分で考えて主体的に行動できる生徒の育成を図る。</p> <p>④ ①清掃、委員会、LHR、受験手続きなどで、主体的に行動させられたか。 ②進路についても、自分で考えて準備させることができたか。</p>	<p>①生徒の自主的な行動を見守った。結果、自分の好きなことや得意なことに対しては主体的に動く生徒、及びそれに協力しようとする生徒が増えた。しかし、苦手なことについては、まだまだ教員の指示が必要な生徒もクラスで数名見られたため、自律を促す継続的な声かけの必要性を感じた。新旧3年担任引き継ぎ会等で次年度に引き継ぎたい。※「生徒アンケートNo6（学校として、生徒会活動は活発に行われている）」で、「そう思う、大体そう思う」と答えている生徒が82.9%。</p> <p>②進路については、情報提供はしたが、最終的な判断は生徒（家庭）にさせた。生徒は自己の進路について、三者面談などの情報をもとに、自分（家庭）で考えて決定した。</p>	B	B	
学校関係者評価者による意見		<ul style="list-style-type: none"> ・「お互いに教え合う」姿勢は非常に良いと思います。受験でも足を引っ張り合うのではなく、こういう姿勢が社会に出てからも大いに役立つと思います。 ・良い進学実績が期待できそうで良かったです。 			
事務部	<p>施設設備並びに教育環境の整備・充実</p> <p>① 定期的な施設の点検・確認作業を行っているか。 危険個所の修理など迅速な対応を行っているか。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・日常的に。技師（庁務）により、環境美化を図ると同時に、施設の点検・確認を行っている。 ・年3回実施される安全点検の結果を基に、修理等の対応を実施している。 ・職員等により、破損個所等が報告された場合、速やかに現場確認を実施し、修理等対応を実施している。 	A	A	
	<p>各種会計の適正な事務処理</p> <p>② 会計諸帳簿や書類等の作成等の処理を適正に行っているか。 内部統制機能を機能させ、透明性のある事務処理が実施できたか。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・県費に関しては、出納局の指導検査を受け行っているほか、監査委員会による監査を受けている。 ・団体費に関しては、各団体による中間検査を受けたほか、高校教育課による事務処理状況考査により事務の執行が適正であるかの確認を受けている。 ・会計事務においては、複数の目で確認し、それぞれが別色のペン等で書類のチェックを実施して、お互いのうっかりミスや失念を防ぐような、透明性のある会計処理を進めている。 	A	A	
学校関係者評価者による意見		<ul style="list-style-type: none"> ・事務関連でも、同じことをきちんとやるだけでなく、新しい試みもどんどん導入していった方がよいと思います。 ・良いと思います。 			

3 次年度の課題と改善方策

次年度の課題	改善方策
①いじめ対策に関する学校側と生徒・保護者の評価の乖離	<p>学校としては定期的に「いじめ問題対策委員会」を開催し、また生徒向け、保護者向けにいじめ防止を目的としたSNS講習会を開催するなど、具体的な取り組みを行ってきたが、学校評価アンケートでは、学校の取り組みに対して低い評価がここ数年続いている。その原因はそうした取り組みが直接的にいじめ問題への対策だという認識に至っていないことと、本校ではいじめ関連の事案がほとんどない、もしくは表面化していないので、学校としての取り組みが生徒・保護者の目に見える形になっていないことが考えられる。</p> <p>対策としては、(1)PTA広報紙や評価アンケート依頼の際の参考資料の中に、いじめ問題の現状と具体的な取り組みを知らせる内容を掲載する(2)生徒には全校集会等の場で、保護者にはPTA総会や学年PTA研修会でいじめ問題の現状報告や、講演会などを実施する(3)LHR等を活用して、生徒同士でいじめ問題に関する議論を行う場を設ける、などを実施する。</p>
②学校行事と災害科学科関連行事の効果的運用	<p>学校関係者評価においては、本校の生徒会の各種活動や災害科学科の校内外の活動に高い評価をいただいている。一方でそれらを指導する教員の負担を心配するご意見もいただいている。</p> <p>改善策としては、年間行事の中で、そうした行事をバランスよく良く配置し、一時期に集中しないように計画の段階から工夫する。</p>